

1. プライズテスト

(1) クラウンプライズ

- a クラウンプライズテストの実技テストの種目と使用する斜面
- パラレルターン・大回り / ナチュラル・急斜面
 - パラレルターン・小回り / ナチュラル・急斜面
 - パラレルターン・小回り / 不整地・中急斜面
 - 総合滑降 / ナチュラル・総合斜面
- b 評価方法は、検定員の評価の平均値（小数点第1位を四捨五入）を当該種目の取得ポイントとする。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。
- c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、4種目の取得ポイントが合計が320ポイント以上をもって合格とする。
- d 受検資格は、SAJ会員（暫定会員含む）、スキーテクニカルプライズ取得者、事前講習修了者。受検者の年齢制限はない。
- 13才未満の受検者及び高齢者については、事前講習、実技テストを実施するにあたり、安全面に特に配慮しなければならない。

(2) テクニカルプライズ

- a テクニカルプライズテストの実技テストの種目と使用する斜面
- パラレルターン・大回り / ナチュラル・急斜面
 - パラレルターン・小回り / ナチュラル・急斜面
 - パラレルターン・小回り / 不整地・中急斜面
 - 総合滑降 / ナチュラル・総合斜面
- b 評価方法は、検定員の評価の平均値（小数点第1位を四捨五入）を当該種目の取得ポイントとする。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。
- c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、4種目の取得ポイントが合計が300ポイント以上をもって合格とする。
- d 受検資格は、SAJ会員（暫定会員含む）、スキー級別テスト1級取得者、事前講習修了者。受検者の年齢制限はない。
- 13才未満の受検者及び高齢者については、事前講習、実技テストを実施するにあたり、安全面に特に配慮しなければならない。

2. 級別テスト

(1) 1級テスト

- a 1級テストの実技テストの種目と使用する斜面
- パラレルターン・大回り / ナチュラル・急斜面
 - ベーシックパラレルターン・小回り / ナチュラル・急斜面
 - パラレルターン・小回り / 不整地を含むナチュラル・中急斜面
 - 総合滑降 / ナチュラル・総合斜面
- b 評価方法は、検定員の評価の平均値（小数点第1位を四捨五入）を当該種目の取得ポイントとする。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。
- c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、4種目の取得ポイントの合計が280ポイント以上をもって合格とする。
- d 級別テスト1級合格者で、SAJ会員未登録者は、当該年度の会員登録または暫定会員登録をしなければならない。
- e 受検資格は、スキー級別テスト2級取得者かつ事前講習修了者。受検者の年齢制限はない。事前講習、実技テストを実施するにあたり、安全面に十分配慮しなければならない。

(2) 2級テスト

a 2級テストの実技テストの種目と使用する斜面

- ベーシックパラレルターン・大回り / ナチュラル・中急斜面
- ベーシックパラレルターン・小回り / ナチュラル・中斜面
- シュテムターン / ナチュラル・中斜面

b 評価方法は、検定員の評価の平均値（小数点第1位を四捨五入）を当該種目の取得ポイントとする。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。

c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、3種目の取得ポイントの合計が195ポイント以上をもって合格とする。

d 受検者の年齢制限はない。

事前講習、実技テストを実施するにあたり、安全面に十分配慮しなければならない。

(3) 3級テスト

a 3級テストの講習内テストの種目と使用する斜面

- ベーシックパラレルターン / 整地の緩～中斜面
- シュテムターン / 整地の緩～中斜面

b 評価方法は、検定員が講習の中で「傾斜地における移動技術」の回転技術を指導し、その運動課題の到達度を評価する。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。

c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、2種目の取得ポイントの合計が120ポイント以上をもって合格とする。

d 受検者の年齢制限はない。

(4) 4級テスト

a 4級テストの講習内テストの種目と使用する斜面

- プルークボーゲンによるリズム変化 / 整地の緩・中斜面

b 評価方法は、検定員が講習の中で「傾斜地における移動技術」の回転技術を指導し、その運動課題の到達度を評価する。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。

c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、55ポイント以上をもって合格とする。

d 受検者の年齢制限はない。

(5) 5級テスト

a 5級テストの講習内テストの種目と使用する斜面

- プルークボーゲン / 整地の緩斜面

b 評価方法は、検定員が講習の中で「傾斜地における移動技術」の回転技術を指導し、その運動課題の到達度を評価する。主任検定員及び検定員の資格要件と人員は別紙のとおりとする。

c 合否判定は、実技1種目あたり100ポイントとし、50ポイント以上をもって合格とする。

d 受検者の年齢制限はない

(6) 夏期バッジテスト及びオンラインバッジテスト

検定内容の詳細等については、SAJの規程、基準及び実施要領による。

3. スキーバッジテスト実施に必要な検定員資格と人員

スキーバッジテスト（プライズテスト、級別テスト）実施に必要な主任検定員及び検定員の資格要件と人員は、以下の別表のとおりとする。

別表

スキーバッジテスト実施に必要な検定員資格と人員表

- * 検定員資格の序列は、名誉検定員>A級検定員>B級検定員>C級検定員の順とする。以降「検定員」を省略する。
- * 主任検定員は検定員を兼務することができる
- * 名誉検定員は検定員にはなれるが主任検定員にはなれない
- * 検定員資格に「以上」がつく場合は名誉検定員を含む

テスト種別		テスト方法	検定員の人数	主任検定員(必置)	検定員1	検定員2	検定員3	備考
プライズテスト	クラウン	実技テスト	3名	A級	B級以上	B級以上	B級以上	検定員が3名ともB級か名誉のときは、A級の主任検定員をおく
	テクニカル	実技テスト	3名	A級	B級以上	B級以上	B級以上	
級別テスト	1級	実技テスト	2名の場合	A級又はB級	B級以上	B級以上		検定員が2名のときは、2名ともB級以上(名誉含む)とする
			3名の場合	A級又はB級	C級以上	C級以上	C級以上	検定員が3名ともC級か名誉のときは、A級かB級の主任検定員をおく
	2級	実技テスト	2名の場合	A級又はB級	B級以上	B級以上		検定員が2名のときは、2名ともB級以上(名誉含む)とする
			3名の場合	A級又はB級	C級以上	C級以上	C級以上	検定員が3名ともC級か名誉のときは、A級かB級の主任検定員をおく
	3級	講習内テスト	1名以上	A級又はB級	C級以上			検定員がC級か名誉のときは、A級かB級の主任検定員をおく
		オンラインテスト	1名以上	A級又はB級	B級以上			検定員がA級かB級のときは、主任検定員を兼務できる
	4級	講習内テスト	1名以上	A級又はB級	C級以上			検定員がC級か名誉のときは、A級かB級の主任検定員をおく
		オンラインテスト	1名以上	A級又はB級	B級以上			検定員がA級かB級のときは、主任検定員を兼務できる
	5級	講習内テスト	1名以上	A級又はB級	C級以上			検定員がC級か名誉のときは、A級かB級の主任検定員をおく
		オンラインテスト	1名以上	A級又はB級	B級以上			検定員がA級かB級のときは、主任検定員を兼務できる

4. ジュニアテスト

- ① ジュニアテストは、スキーの実技について行い、1級から6級までの6段階に分け、そのテスト基準及び実施要領について必要な事項は、実施する加盟団体において別に定める。
- ② 受検者は、12歳以下(小学生以下)とする。

5. その他

スキーバッジテストの実施にあたっては、上記のスキーバッジテスト内容の他、SAJの公認スキーバッジテスト規程、公認バッジテスト基準及び実施要領を参照のこと。